Jazz Interview Vol. 21

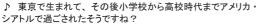
★ ジャズの未来を担う期待のベーシスト ★

中村恭士【Yasushi Nakamura】

東京生まれ、アメリカ・シアトル育ちのジャズ・ベーシスト、中村恭士は 現在 28歳。NYを拠点に著名ミュージシャンたちと共演を重ね、レコーディングや演奏で世界中を飛び回っている今注目の逸材! 30年後の自分の 姿に「大好きなので多分ベースを弾いてます!」と答えてくれた通り、30年後までには世界に名立たる偉大なベースマンとなっていると確信!

愛用のウッドベースはイタリア製の「Lociano Golia」で、弦は「Thomastik」の "Spirocore" を E, A, D で、G には「Pirastro」の "Eudoxa" を使用。また、最近バックアップとして 1950 年代の「Kay」のウッドベースも手に入れ、「Pirastro」の "Chorda" ガット弦を張り、とてもいい感じだそうだ。みなさん、今後この顔と名前にピン!と来たら、どうか彼、中村恭士ののベースを聴いてみて下さい! 取材 & 文:加瀬正之

【中村恭士のホームページ】 ⇒ http://www.yasushinakamura.com/ 【中村恭士のブログ】 ⇒ http://yazu120.exblog.jp/



【中村】そうです。当時父が水産業に勤めていまして、仕事の 転勤で家族でアメリカに引っ越しました。具体的には、初めはア ラスカに引っ越し、その1年半後にシアトルに引っ越しました。

♪ シアトルでの生活で特に思い出深かったことは何ですか? 【中村】 自然が多く、雨も多かったですが、住みやすくいい所でした。あと、シアトルの高校のジャズ教育のレベルが高かったことです。大会やフェスティバルで演奏するチャンスやツア一等があり、音楽を学ぶのに恵まれた環境だったと思います。それといつも応援してくれていた家族、親には感謝しています!

♪ 当時のシアトルの音楽 / ジャズ・シーンはいかがでしたか? 【中村】当時はグランジの全盛期で Nirvana, Pearl Jam 等が流行ってましたね。僕も良く聴いてました。ジャズ・シーンも負けずに人気のジャズ・クラブ『Jazz Alley』や『Tula's』等が数カ所あり、ローカル・ミュージシャンもたくさん演奏をしていました。

♪ 11 才の頃にまずはクラリネットとテナーサックスを手にされて、14 才の頃にエレクトリック・ベースを手にしたそうですが、なぜベースに惹かれたのですか?

【中村】僕の兄がギターとドラムをやっていて、それに影響されたのですが、同じ楽器は嫌だったみたいです(笑)。それとやはリシアトルですし、当時のバンド・ブームもあったので。

♪ それから1年後にはウッドベースを弾き始めたそうですが、 この頃からジャズに惹かれ始めたのですか?

【中村】 そうですね。徐々にですが、ジャズのベースって自由に 弾いていいんだってことがわかって、だんだん魅了されていきま した。一番最初に買った CD が Charlie Parker で、Ray Brown を初めて聴いて「スゲー!」って思いました。

♪ シアトルでは Chuck Deardorf, Doug Miller や Michael Steams といった人たちに師事されたそうですね?

【中村】一番最初にウッドベースを始めるきっかけをつくってくれたのが Mr. Stearns でした。彼は僕が通っていた中学の音楽授業の助手の先生で、ある日僕の手を見て「お前はウッドベースをや



れ!」といい、わざわざ家までベースを持って来てくれて、無料でレッスンをしてくれました。とても尊敬しています。 彼は昔 Billy Eckstine と共演したり、俳優として Marvin Gaye 等とも共演していました。 Chuck も Doug も素晴らしい先生でベースの大切さや基礎など色々なことを教えてくれました。 今の僕があるのもやはり彼らの良い指導があったからだと思います。

♪ 影響を受けたベーシストは誰ですか?

【中村】 本当にたくさんのベーシストたちに影響を受けましたが、 中でも Ray Brown を一番聴いた気がします。

♪ バークリー音楽大学 (2003 年卒業) とジュリアード音楽院 (2006 年 Artist Diplom として卒業) で学ばれていますが、それぞれの学校で学んだことで重要なことは何でしたか?

【中村】バークリーは理論やアドリブまで細かいところを教えてくれる素晴らしい学校です。授業を通してたくさん学びましたが、最終的には自分次第なのでそれをどう練習したらいいかという事になってくると、やはり周りの生徒から助けられ、教授だけからでなく生徒から得たものも大きいと思います。生徒の数も多く、他国からみんな来てますから、色々なスタイルを学べました。懐かしいです。授業へ行ったり、みんなでセッションをしたり、一日中練習していた気がします。楽しくて仕方がなかったです。ジュリアードからもたくさん学びました。生徒が少なく、教授と触れ合時間が多く、「感じて覚えろ!」という様な実戦的な教え方で、一つ一つのチャンスを大事にする事を学びました。ここでも大切な出会いや仲間ができました。

♪ プロの音楽家としての転機はいつ頃だと思いますか? 【中村】正直、今でもあまり実感がないのですが、でも音楽に対してはいつもマジなんで、まあ好きな事をやって食べれているんだなと思う時、ああ一応プロなんだなと感じます。このインタビューの話が来た時もこの質問を見た時も感じました!

♪ 現在の活動について簡単に教えてもらえますか? 【中村】最近は NY を拠点に、NY のクラブで演奏したり、レコーディングやツアーをしたりしています。 最近はリンカーン・センターのメンバーでもあり、 先生でもあった Victor Goines, Wycliffe Gordon, David Berger 等と仕事をしたり、 Myron Walden, Ron Blake, Carl Allen, Dominick Farinacci, Brandon Lee, Toru Dodo 等、素晴ら しいミュージシャンたちと共演させてもらってます。とにかく色々な 人たちと音楽をシェアできることが嬉しいです。

♪ 一番最近レコーディングに参加した作品は何ですか? 【中村】 一番最近は Victor Goines のプロジェクトですね、まだ リリースはされてないのですが。つい最近リリースされたのは Carlton Holmes Trio の『You, Me and I』というアルバムですね。 あと、まだ詳細は未定ですが、近々 Dominick Farinacci のレコー ディングが予定されるかもしれません。

♪ これまで参加した作品で特に気に入っている作品は? 【中村】難しい質問です! どのアルバムも全力でがんばりました! その中でも思い出に残っているのは、NY に来たての頃に Loren Schoenberg からレコーディングの仕事をもらい、スタジ オに行ったらドラムが Kenny Washington、シンガーが Barbara Lea 等、豪華なメンバーがいて、リハ無しのほぼワンテイクで 収録をしたり、NY は凄い所なんだなと実感しましたね。それか らいつでも自分は "Be Ready" じゃないといけないんだなと思 いましたね。それが Barbara Lea with Loren Schoenberg Big Band の『Black Butterfly』というアルバムです。

♪ これまで共演して特に印象に残っていたり、感動したミュージシャン、また、ライヴなどはありますか?

【中村】つい最近、3月にMyron Walden In this World の CD リリース・パーティーが『Jazz Standard』であり、Myron の音楽性と Brian Blade の優しい人柄とプレイに感動しました! それともう2年近〈経ちますが、Dennis Irwin の『Benefit Concert』で演奏した時です。沢山のミュージシャンが Dennis の為に集まり、資金を集める為に行なわれたコンサートでした。しかしコンサート当日に亡くなってしまい、悲しみ等いろいろな事について考えさせられるコンサートでした。泣きながら「The Very Thought Of You」を歌った Aria Hendricks や Wynton の「Stardust」はまだ昨日の様に覚えてます。Dennis にもきっとみんなの思いが届いたと思います。

♪ どのようなベーシストを目指していますか?

【中村】存在感があり、みんなから必要とされるベーシストになりたいです。それと自分の音やスタイルや味をみんなにわかってもらうことが目標です。すごいアーティストって見たり聴いたりするだけで、一瞬で誰が書いたかとか弾いたとかがわかるじゃないですか! そんな風に近づける様にがんばります!

♪ ジャズ・ベーシストとして一番大切なことは?

【中村】やはりベーシストなので"ベース"の任務を認識していないといけないと思います。ビート、ラインはもちろんのことで、常に周りを聴く耳が必要です。自分が出している一つ一つの音がどんな音でどんな時に音を繰り出しているのかを意識しないといけないです。それに加え、オリジナリティーとオープンマインドになることが必要だと思います。あと人柄とか、遅刻をしないこと! 最後に必ず SWING すること!! ジャズっすから!





♪ リーダー・アルバムの予定はありますか? また、もし自分のやりたいようにできるとしたらどんな作品を作りたいですか?
【中村】今はないですが、近々やりたいですね! 曲は幾つかあるので! もし話が来たら、基本的に自分の曲やスタンダード中心にやりたいですね。でもアイディアが浮かんでそれが良かったらもちろん何でもです! 自分のコンセプトをわかってくれるミュージシャンたち、あとやっぱり今までに演奏した事のある人とか、自分が尊敬している人たちと一緒に楽しく作っていきたいですね。

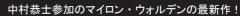
♪ 本場アメリカで活動している中村さんにとって今のジャズ・シーンはどのように感じますか?

【中村】そうですね、とにかく名があっても、なくてもいいミュージシャンが山ほどいます。特に NY は。その中でやっぱり自分の個性と実力を持っていないと、すぐにシーンから外されてしまいますよね。本当に実力の世界だと思います。

♪ 中村さんの将来の夢は何ですか?

【中村】自分の秘めているものを更に磨く事です。世界中の人たちと音楽や芸術を分かち合えたらいいなと思ってます! 自分を信じて、自分の愛してるものをやり続ける事ですね!

♪ 最後に『The Walker's』読者にメッセージをお願いします! 【中村】いつも応援有り難うございます。みなさんのサポートが 支えになっています。感謝の気持ちで一杯です! 人生色々あ りますが、自分を信じて、やりたことをやり通して下さい。あきら めずにがんばれば一つ一つ叶うはずです。僕もがんばります!





To Feel
Myron Walden
In This World

OFF MINOR: OFM-014 ¥2,500 (tax in) Now On Sale!